



1970-1976

六甲サッカー部は強いという定評の中で、遂に一度も優勝を成し得なかった。



後列左より、高木・中田・田中
前列左より、浜口・松浦・秋田・中村・菅野・鷺尾

六甲サッカー部が強かった一つの時代

我々33期は、六甲サッカー部が非常に強かった一つの時代の終わり頃に位置していたと思う。29期・30期の全国高校総体出場（昭和46年8月）、31期・32期の新人戦近畿大会制覇（昭和48年3月）を目のあたりにして、六甲サッカー部は、強い学校であるという定評の中でプレーできた。

佃先生（佃セン）の指導

六甲サッカー部の強さは、そのほとんどすべてを佃先生に負っていたと言っても過言ではないと思う。校則から

週3日に決められていた練習の中に内容の濃い練習を織り込んでいた。また短い練習時間では培えない基礎体力は毎日課せられたサーキットトレーニングで補った。また、早朝の自主練習も短い練習を補うものであった。それらすべては佃先生の指導によるものであった。

伝統

また、先輩から受け継いだ伝統というものの力も大きい。先輩たちが強いということは、自分たちも強いものである、また強くなければならないと思うものである。そういった環境の中で強さとは生まれてくるものであると思

う。強い六甲の伝統よ永遠なれと思う。

スーパースター松浦を中心に

我々33期のチームはFWにスーパースター松浦を擁し、守備の要はDFの秋田とGKの中田。右ウイングは浜口。高木は中学時代はバック、高校時代はセンターフォワード。ハーフは中村と菅野。バックは鷺尾と飯尾。そしてマネージャーには田中。チームを組む32期・34期にも恵まれて、チームの力はますますのレベルにあったと思う。しかし、成績は必ずしも満足できるものではなかった。

成し得なかった優勝

戦績は中学時代は兵庫県3位(昭和46年。中2)、神戸市3位(昭和47年。中3)、高校時代は兵庫県準優勝(昭和48年。高1)、神戸市準優勝(昭和50年。高2)が最高で、優勝は一度も成し得なかった。実力的には優勝できそうな大会もあったと思うが、本番における弱さからか、力を出し得ず苦盃をなめたことは今でも残念なことである。

六甲ヒルケルフットボールクラブ

さて、もう一つ、六甲ヒルケルフットボールクラブの思い出も記しておきたい。我々33期が六甲を卒業と同時に結成されたヒルケルクラブは、神戸市社会人リーグに加盟して数々の成績を残した。神戸市の総合体育大会で優勝。リーグ戦でも3部、2部、1部とリーグ戦で優勝を重ねた。また、昭和55年には、天皇杯関西大会に兵庫県代表として出場し、関西社会人リーグの湯浅電池と対戦した。試合は善戦したものの惜敗したが、良い思い出である。

また、昭和53年にはヒルケルさんとヨーロッパ遠征に出かけた。観光を兼ねて、ヒルケルさんの里帰りに付いていったものだが、西ドイツとベルギーで2試合をこなした。結果は1勝1敗であったが良い思い出である。

ヒルケルクラブの試合には、よくヒルケルさんが応援に来てくれた。亡くなる1週間ほど前にも応援に来てくれていたのに、突然の悲報には信じられない思いだった。温かくお世話いただいたご恩に感謝するとともに、ご冥福をお祈りしたい。

生涯の友情

我々33期は今もたいへん仲がいい。年に何度かは集まって酒を酌み交わし親交を深めている。生涯の友情をはぐくんでくれた六甲サッカー部には感謝している。

六甲サッカー部の思い出は、我々にとって燃え上がる情熱であり、胸を張って語れる青春の1ページである。

六甲サッカー部よ永遠なれ。
そして強いサッカー部であり続けてほしい。

[中田 高志]

<主な戦績>

中2(昭和46年度)	第5回兵庫県中学校サッカー選手権	3位
中3(昭和47年度)	第24回神戸市総合体育大会	3位
高1(昭和48年度)	第17回兵庫県高等学校総合体育大会	2位
	第52回兵庫県高等学校サッカー選手権	ベスト8
高2(昭和49年度)	神戸市高等学校新人戦	2位

<33期のメンバー>

秋田 敏明(DF) キャプテン。中3神戸市選抜。高1神戸市選抜。スパーとしてバックの中心。キャプテンとしてみんなをまとめる力はあるが、ちょっと変わりもので、発想がユニークな男。

菅野 裕之(MF) 通称スガエン。ハーフバックとしてシュアなプレーをする。足が長くなく、ダックスとも言われた。スガエンが股の間を抜かれたときには佃先生が感心することしきり。

飯尾 誠(DF) どっしりとしたバック。仲々抜かれないが、抜かれたら足がおそい。高校に入って受験勉強をやめると言って退部したが、本当に東大に入りよった。

高木 聡(DF,FW) 中学時代はバックで、高校に入りセンターフォワードに転向。ゴール前のミスには何度も泣かされた。

中村 祥一(MF) 中2のときにテニス部から転部。器用さはないが仲々キレのいいプレーをする。高1のときの同点ボレーシュートはすばらしかった。

浜口 進治(FW) 高1神戸市選抜。前に抜いていくしかできないウィングだがこれが仲々抜いていく。こいつのセンターリングは、シュートかセンターリングかわからない。体が硬く、丸めてもまっすぐな背中を持っている。

松浦 隆幸(FW) 中2神戸市選抜。中3神戸市選抜。高1神戸市選抜。

高3国体兵庫県代表候補(セレクション)

に行かず佃先生におこられる)。中学時代はスーパースター。得点力は抜群。1人で5~6人を抜いてゴールしたことも。骨折後、高校時代はちょっと鈍ったが、それでも国体候補。

鷲尾 勝(DF) 猪突猛進のストッパー。スライディングタックルは天下一品。サッカーが死ぬほど好きで、練習の虫。

田中 靖人(マネージャー) 通称ブーチャン。とてもサッカーができる体ではないが、マネージャーとして途中入部。チームのリーダーとしてまとめ役として重要な存在。評論をさせると、これがまた弁が立つ。

中田 高志(GK) 中3神戸市選抜。高1神戸市選抜。高3国体兵庫県代表候補(セレクションに行かず佃先生におこられる)。ファインプレーは超高校級。しでかすチョンボは大チョンボ。キック力は抜群。キーパーからのキックで直接ゴールインしたことは語り草。

